

第213回 上級 商業簿記 ①

問題1及び2について、【 】には科目の記号を、〔 〕には金額をそれぞれ1つのみ記入すること。
なお、空欄となる場合もある。

問題1

	日付	借方科目	金額	貸方科目	金額	
問1	3/31	【 A 】	〔 165,000 〕	【 E 】	〔 165,000 〕	⑤
	4/1	【 E 】	〔 165,000 〕	【 A 】	〔 165,000 〕	⑤
問2	6/30	【 A 】	〔 420,000 〕	【 C 】	〔 462,000 〕	⑩
		【 F 】	〔 42,000 〕	【 】	〔 〕	

問題2

	借方科目	金額	貸方科目	金額	
開始仕訳	【 B 】	〔 4,000,000 〕	【 A 】	〔 3,700,000 〕	⑤
	【 C 】	〔 1,160,000 〕	【 D 】	〔 1,650,000 〕	
	【 E 】	〔 190,000 〕	【 】	〔 〕	
のれんの償却	【 F 】	〔 10,000 〕	【 E 】	〔 10,000 〕	⑤
純利益の振替	【 G 】	〔 750,000 〕	【 D 】	〔 750,000 〕	⑤
配当金の修正	【 H 】	〔 840,000 〕	【 C 】	〔 1,200,000 〕	⑤
	【 D 】	〔 360,000 〕	【 】	〔 〕	

○印は予想配点

第213回 上級 商業簿記 ②

問題3

決算整理後残高試算表

単位：円

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	100	買掛金	145,000
当座預金	11,000	仮受消費税等	0
クレジット売掛金	[③ 75,306]	貸倒引当金	[4,406]
売掛金	[113,000]	未払利息	[③ 1,500]
売買目的有価証券	[491,500]	未払消費税等	[③ 10,826]
買建オプション	[③ 3,500]	未払法人税等	[31,000]
未収利息	[200]	建物減価償却累計額	[③ 568,750]
仮払金	0	備品減価償却累計額	[③ 4,925]
前払地代	[③ 16,000]	車両減価償却累計額	[③ 3,960]
仮払法人税等	0	社債	[③ 198,933]
仮払消費税等	0	資本金	800,000
商品	[175,300]	利益準備金	196,000
建物	800,000	繰越利益剰余金	[③ 160,960]
備品	[9,800]	売上	1,600,000
車両	[③ 13,200]	有価証券評価損益	[③ 17,500]
借地権	500,000	オプション差損益	[2,000]
長期貸付金	[12,000]	受取利息	[③ 200]
売上原価	1,020,000	固定資産売却損益	[③ 400]
給与手当	250,000		
支払地代	[24,000]		
支払手数料	[③ 9,540]		
貸倒引当金繰入（営業費）	[③ 2,800]		
減価償却費	[③ 30,985]		
棚卸減耗損	[③ 2,500]		
商品評価損	[③ 2,200]		
その他の営業費用	120,000		
貸倒引当金繰入（営業外）	[③ 606]		
社債利息	[6,823]		
法人税等	56,000		
	[3,746,360]		[3,746,360]

注意：[] 内の金額がゼロである場合、0と記入すること。

○印は予想配点

第213回 上級 会計学 ①

問題 1

	正誤	理 由	
1.	○		④
2.	○		④
3.	×	割引前の将来キャッシュ・フローが減少する場合には、その見積りの変更が生じた時点の割引率ではなく、負債計上時の割引率によって調整額を計算する。	④
4.	×	全額を親会社の持分に配分するのではなく、親会社と非支配株主の持分比率に応じて、親会社の持分と非支配株主持分に配分する。	④
5.	×	繰延税金資産または繰延税金負債は、回収または支払が行われると見込まれる期の税率に基づいて計算する。	④
6.	×	ヘッジ会計の要件が充たされていた間のヘッジ手段に係る損益または評価差額は、ヘッジ対象に係る損益が認識されるまで引き続き繰り延べる。	④
7.	○		④
8.	×	1株当たり当期純利益は、普通株式に係る当期純利益を普通株式の期中平均株式数で除して算定する。	④
9.	○		④
10.	○		④

○印は予想配点

第213回 上級 会計学 ②

問題2

問1

1	要求払	2	換金可能	3	価値の変動
4	短期投資	5	三か月	各②	

問2

(1) 直接法

キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業収入	②	[480,000]
商品の〔 仕入支出 〕	②	[△274,500]
人件費の支出	②	[△41,600]
その他の営業支出	②	[△14,500]
小 計		[149,400]
〔 利 息 〕の受取額	②	[1,300]
〔 利 息 〕の支払額	②	[△1,800]
〔 法人税等 〕の支払額	②	[△34,000]
営業活動によるキャッシュ・フロー		[114,900]

(注) マイナスは金額の前に△を付すこと

(2) 間接法

キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

営業活動によるキャッシュ・フロー

〔 税引前当期純 〕利益	②	[126,000]
減価償却費	②	[20,000]
貸倒引当金の〔 増加額 〕	②	[400]
〔 有価証券売却益 〕	②	[△2,000]
受取利息		[△1,500]
社債利息		[2,100]
売上債権の〔 増 加 〕額	②	[△20,000]
棚卸資産の〔 減 少 〕額	②	[18,500]
仕入債務の〔 増 加 〕額		[7,000]
前払費用の〔 増 加 〕額		[△2,500]
未払費用の〔 増 加 〕額	②	[1,400]
小 計		[149,400]
〔 利 息 〕の受取額		[1,300]
〔 利 息 〕の支払額		[△1,800]
〔 法人税等 〕の支払額		[△34,000]
営業活動によるキャッシュ・フロー		[114,900]

(注) マイナスは金額の前に△を付すこと

○印は予想配点

第213回 上級 会計学 ③

問題3

問1

(1)	1	イ	2	オ	3	コ
	4	カ	5	ケ	各②	

(2)	①	(c)	②	(a)	③	(b)	各②

問2

①使用価値：資産又は資産グループの継続的使用と使用後の処分によって生ずると見込まれる将来キャッシュ・フローの現在価値をいう。	③
②正味売却価額：資産又は資産グループの時価から処分費用見込額を控除して算定される金額をいう。	③

○印は予想配点

【商業簿記解説】

問題1 仕訳問題（数量値引）（以下、単位：円）

問1

(1) 3月31日までの販売時の仕訳

① A社

(売 掛 金) (*3)	770,000	(売 上) (*1)	700,000
		(仮 受 消 費 税 等) (*2)	70,000

(*1) @10,000<売価>×70個=700,000

(*2) 700,000×10%<消費税率>=70,000

(*3) 700,000+70,000=770,000

② B社

(売 掛 金) (*3)	440,000	(売 上) (*1)	400,000
		(仮 受 消 費 税 等) (*2)	40,000

(*1) @10,000<売価>×40個=400,000

(*2) 400,000×10%<消費税率>=40,000

(*3) 400,000+40,000=440,000

③ C社

(売 掛 金) (*3)	330,000	(売 上) (*1)	300,000
		(仮 受 消 費 税 等) (*2)	30,000

(*1) @10,000<売価>×30個=300,000

(*2) 300,000×10%<消費税率>=30,000

(*3) 300,000+30,000=330,000

(2) 3月31日の仕訳

3月31日までの販売実績と4月1日から6月30日までの販売予想に基づいて、A社とB社については100個以上購入するという条件の達成が見込まれるため、数量値引による返金見込額については、収益を認識せず返金負債で処理する。（本問においては、問題文の指示により、契約負債で処理する。）

① A社

(売 上)	105,000	(契 約 負 債) (*)	105,000
---------	---------	-----------------	---------

(*) 700,000×15%<値引率>=105,000

② B社

(売 上)	60,000	(契 約 負 債) (*)	60,000
---------	--------	-----------------	--------

(*) 400,000×15%<値引率>=60,000

③ C社

仕 訳 な し			
---------	--	--	--

(3) 4月1日の仕訳

A社とB社について、問題文の指示により再振替仕訳を行う。

① A社

(契 約 負 債)	105,000	(売 上) (*)	105,000
-------------	---------	-------------	---------

② B社

(契 約 負 債)	60,000	(売 上) (*)	60,000
-------------	--------	-------------	--------

問2

(1) 4月1日から6月30日までの販売時仕訳

① A社

(売 掛 金) (*3)	1, 100, 000	(売 上) (*1)	1, 000, 000
		(仮 受 消 費 税 等) (*2)	100, 000

(*1) @10,000<売価>×100個=1,000,000

(*2) 1,000,000×10%<消費税率>=100,000

(*3) 1,000,000+100,000=1,100,000

② B社

(売 掛 金) (*3)	550, 000	(売 上) (*1)	500, 000
		(仮 受 消 費 税 等) (*2)	50, 000

(*1) @10,000<売価>×50個=500,000

(*2) 500,000×10%<消費税率>=50,000

(*3) 500,000+50,000=550,000

③ C社

(売 掛 金) (*3)	880, 000	(売 上) (*1)	800, 000
		(仮 受 消 費 税 等) (*2)	80, 000

(*1) @10,000<売価>×80個=800,000

(*2) 800,000×10%<消費税率>=80,000

(*3) 800,000+80,000=880,000

(2) 1月から6月までの販売実績

- ① A社：70個+100個=170個 ∴ 値引の条件達成
 ② B社：40個+50個=90個 ∴ 値引の条件達成せず
 ③ C社：30個+80個=110個 ∴ 値引の条件達成

(3) 6月30日の仕訳

条件を達成したA社とC社について、1個当たり15%の値引を行い、6月30日の売掛金残高と相殺する。

① A社

(売 上) (*2)	255, 000	(売 掛 金) (*1)	280, 500
(仮 受 消 費 税 等) (*3)	25, 500		

(*1) (770,000+1,100,000)×15%=280,500

(*2) 280,500÷110%=255,000<消費税抜き>

(*3) 255,000×10%=25,500<消費税>

② B社

仕 訳 な し	
---------	--

③ C社

(売 上) (*2)	165, 000	(売 掛 金) (*1)	181, 500
(仮 受 消 費 税 等) (*3)	16, 500		

(*1) (330,000+880,000)×15%=181,500

(*2) 181,500÷110%=165,000<消費税抜き>

(*3) 165,000×10%=16,500<消費税>

問題2 仕訳問題(連結会計)(以下、単位:円)

(1) タイム・テーブル(S社資本勘定の推移)

	2X00.3.31		2X01.3.31	当期	2X02.3.31
	70%取得				
資本金	4,000,000		4,000,000		4,000,000
利益剰余金	1,000,000	+500,000	(*)1,500,000	利益+2,500,000 配当△1,200,000	2,800,000
	5,000,000		5,500,000		6,800,000

(*) $2,800,000 < \text{個別B/S} > + 1,200,000 < \text{配当金} > - 2,500,000 < \text{当期純利益} > = 1,500,000$

(2) 開始仕訳

① 投資と資本の相殺消去

(資本金)	4,000,000	(S社株式)	3,700,000
(利益剰余金)	1,000,000	(非支配株主持分)(*)2	1,500,000
(のれん)(*)1	200,000		

(*)1 $4,000,000 + 1,000,000 = 5,000,000 < \text{S社資本} >$

$5,000,000 \times 70\% < \text{P社持分比率} > = 3,500,000 < \text{P社持分} >$

$3,700,000 < \text{S社株式} > - 3,500,000 = 200,000$

(*)2 $5,000,000 \times 30\% < \text{非支配株主持分比率} > = 1,500,000$

② 過年度ののれんの償却

(利益剰余金)(*)	10,000	(のれん)	10,000
------------	--------	-------	--------

(*) $200,000 \div 20\text{年} = 10,000$

③ 過年度の増加利益剰余金の振替

(利益剰余金)(*)	150,000	(非支配株主持分)	150,000
------------	---------	-----------	---------

(*) $(1,500,000 < 2X01\text{年}3\text{月期} > - 1,000,000 < 2X00\text{年}3\text{月期} >) \times 30\% < \text{非支配株主持分比率} > = 150,000$

④ 開始仕訳のまとめ(①~③)

(資本金)	4,000,000	(S社株式)	3,700,000
(利益剰余金)	1,160,000	(非支配株主持分)	1,650,000
(のれん)	190,000		

(3) 期中仕訳(2X02年3月期の連結修正仕訳)

① のれんの償却

(のれん償却)(*)	10,000	(のれん)	10,000
------------	--------	-------	--------

(*) $200,000 \div 20\text{年} = 10,000$

② 純利益の振替

(非支配株主に帰属する当期純利益)(*)	750,000	(非支配株主持分)	750,000
----------------------	---------	-----------	---------

(*) $2,500,000 \times 30\% < \text{非支配株主持分比率} > = 750,000$

③ 配当金の修正

(受取配当金)(*)1	840,000	(利益剰余金)	1,200,000
(非支配株主持分)(*)2	360,000		

(*)1 $1,200,000 < \text{配当金} > \times 70\% < \text{P社持分比率} > = 840,000$

(*)2 $1,200,000 < \text{配当金} > \times 30\% < \text{非支配株主持分比率} > = 360,000$

問題3 決算整理後残高試算表の作成(以下、単位:円)

1. 商品取引

クレジットカードによる商品取引について、今期末の処理『3) 期末のクレジット売掛金に含まれる手数料等は、期末にクレジット売掛金から支払手数料と仮払消費税等に振り替え、』という処理はまだ行っていないが、まずは、2. 売上債権についての(1)のクレジット売掛金の貸倒処理を先に行って、期末のクレジット売掛金残高を確定させる。

(1) クレジット売掛金の貸倒処理

(貸倒引当金)(*1)	1,000	(クレジット売掛金)	1,100
(仮受消費税等)(*2)	100		

(*1) $1,100 \div 110\% = 1,000$ <消費税抜き>

(*2) $1,000 \times 10\% = 100$ <消費税>

∴ クレジット売掛金(貸倒処理後): $78,100 < \text{前T/B} > - 1,100 = 77,000$

(2) クレジット売掛金の期末処理

(支払手数料)(*1)	1,540	(クレジット売掛金)(*3)	1,694
(仮払消費税等)(*2)	154		

(*1) $77,000 < \text{クレジット売掛金(貸倒処理後)} > \times 2\% < \text{手数料率} > = 1,540$

(*2) $1,540 \times 10\% < \text{消費税率} > = 154$

(*3) $1,540 + 154 = 1,694$

∴ 後T/Bクレジット売掛金: $77,000 < \text{クレジット売掛金(貸倒処理後)} > - 1,694 = 75,306$

∴ 後T/B支払手数料: $8,000 < \text{前T/B} > + 1,540 = 9,540$

2. 売上債権

(1) 売掛金(貸倒懸念債権) ~ キャッシュ・フロー見積法

(長期貸付金)	12,000	(売掛金)	12,000
(貸倒引当金繰入(営業外))(*)	606	(貸倒引当金)	606

(*1) $2,000 \times 5.697 < \text{年利率} 1.5\% \cdot \text{期間} 6 \text{年の年金現価係数} > = 11,394 < \text{割引現在価値} >$

$12,000 - 11,394 = 606 < \text{設定額} = \text{繰入額} >$

∴ 後T/B売掛金: $125,000 < \text{前T/B} > - 12,000 = 113,000$

(2) その他の売掛金(一般債権)

問題文の指示により、クレジット売掛金については、貸倒処理後、手数料等控除前の期末残高に対して貸倒引当金を設定する。

(貸倒引当金繰入(営業費))(*)	2,800	(貸倒引当金)	2,800
-------------------	-------	---------	-------

(*1) $(113,000 < \text{売掛金} > + 77,000 < \text{クレジット売掛金(貸倒処理後)} >) \times 2\% = 3,800 < \text{設定額} >$

$3,800 - (2,000 < \text{前T/B貸倒引当金} > - 1,000) = 2,800 < \text{繰入額} >$

∴ 後T/B貸倒引当金: $606 < \text{貸倒懸念債権} > + 3,800 < \text{一般債権} > = 4,406$

3. 売買目的有価証券

(1) ドル建株式

(売買目的有価証券)(*)	20,500	(有価証券評価損益)	20,500
---------------	--------	------------	--------

(*1) $10 \text{株} \times 80 \text{ドル} \times @110 + 20 \text{株} \times 120 \text{ドル} \times @120 = 376,000 < \text{帳簿価額} >$

$(10 \text{株} \times 95 \text{ドル} < \text{時価} > + 20 \text{株} \times 105 \text{ドル} < \text{時価} >) \times @130 \text{円} < \text{C R} > = 396,500 < \text{時価} >$

$396,500 - 376,000 = 20,500 < \text{評価益} >$

(2) 円建国債

① 未収利息の計上

(未 収 利 息) (*)	200	(受 取 利 息)	200
---------------	-----	-----------	-----

$$(*) @100 \times 1,000 \text{口} \times 0.6\% \times \frac{4 \text{か月}}{12 \text{か月}} = 200$$

② 円貨建国債の時価評価

(有 価 証 券 評 価 損 益) (*)	3,000	(売 買 目 的 有 価 証 券)	3,000
-----------------------	-------	-------------------	-------

$$(*) (@95 - @98) \times 1,000 \text{口} = \Delta 3,000 < \text{評価損} >$$

$$\therefore \text{後 T/B 売買目的有価証券} : 474,000 < \text{前 T/B} > + 20,500 < \text{外貨建株式} > - 3,000 < \text{円貨建国債} > = 491,500$$

$$\therefore \text{後 T/B 有価証券評価損益} : 20,500 < \text{外貨建株式} > - 3,000 < \text{円貨建国債} > = 17,500$$

③ プットオプション (買い建て) の時価評価

(買 建 オ プ シ ョ ン) (*)	2,000	(オ プ シ ョ ン 差 損 益)	2,000
---------------------	-------	-------------------	-------

$$(*) (@3.5 - @1.5) \times 1,000 \text{口} = 2,000 < \text{評価益} >$$

$$\therefore \text{後 T/B 買建オプション} : 1,500 < \text{前 T/B} > + 2,000 = 3,500$$

4. 期末商品

(1) 商品 P

(棚 卸 減 耗 損) (*1)	2,500	(商 品) (*3)	4,000
(商 品 評 価 損) (*2)	1,500		

$$(*) (80 \text{個} < \text{帳簿} > - 75 \text{個} < \text{実地} >) \times @500 = 2,500$$

$$(*) 75 \text{個} \times (@500 - @480 < \text{正味} >) = 1,500$$

$$(*) 2,500 + 1,500 = 4,000$$

(2) 商品 Q

(商 品 評 価 損) (*)	700	(商 品)	700
-----------------	-----	-------	-----

$$(*) 10 \text{個} \times (@100 - @30 \text{円}) = 700$$

$$\therefore \text{後 T/B 商品} : 180,000 < \text{前 T/B} > - 4,000 - 700 = 175,300$$

$$\therefore \text{後 T/B 商品評価損} : 1,500 + 700 = 2,200$$

5. 有形固定資産

(1) 建物

① 過去の誤謬の訂正

(繰 越 利 益 剰 余 金) (*)	152,250	(建 物 減 価 償 却 累 計 額)	152,250
---------------------	---------	---------------------	---------

$$(*) 800,000 < \text{前 T/B 建物} > \times 0.9 \times \frac{21 \text{年} \times 12 \text{か月} + 9 \text{か月}}{40 \text{年} \times 12 \text{か月}} = 391,500 < \text{誤謬訂正前} = \text{前 T/B 減価償却累計額} >$$

$$800,000 < \text{前 T/B 建物} > \times \frac{21 \text{年} \times 12 \text{か月} + 9 \text{か月}}{32 \text{年} \times 12 \text{か月}} = 543,750 < \text{正しい累計額} >$$

$$543,750 - 391,500 = 152,250 < \text{訂正額} >$$

$$\therefore \text{後 T/B 繰越利益剰余金} : 313,210 < \text{前 T/B} > - 152,250 = 160,960$$

② 減価償却

(減 価 償 却 費) (*)	25,000	(建 物 減 価 償 却 累 計 額)	25,000
-----------------	--------	---------------------	--------

$$(*) 800,000 < \text{前 T/B 建物} > \div 32 \text{年} = 25,000$$

$$\therefore \text{後 T/B 建物減価償却累計額} : 543,750 < \text{正しい累計額} > + 25,000 = 568,750$$

(2) 備品

① 資本的支出

(備品)(*)	1,800	(仮払金)	1,980
(仮払消費税等)(*)	180		

(*) $1,980 \div 110\% = 1,800$ <消費税抜き>

(*) $1,800 \times 10\% = 180$ <消費税>

∴ 後T/B備品 : $8,000$ <前T/B> + $1,800 = 9,800$

② 減価償却

(a) 従来部分

(減価償却費)(*)	1,125	(備品減価償却累計額)	1,125
------------	-------	-------------	-------

(*) $8,000 \times 0.079$ <保証率> = 632 <保証額>

$1 \div 8 \text{年} \times 200\% = 0.25$ <償却率>

$(8,000$ <前T/B備品> - $3,500$ <前T/B累計額>) $\times 0.25 = 1,125 > 632$ ∴ $1,125$

(b) 資本的支出部分

(減価償却費)(*)	300	(備品減価償却累計額)	300
------------	-----	-------------	-----

(*) $1,800 \times 0.25 \times \frac{8 \text{ヵ月}}{12 \text{ヵ月}} = 300$

∴ 後T/B備品減価償却累計額 : $3,500$ <前T/B> + $1,125 + 300 = 4,925$

(3) 車両

① 旧車両の売却

(車両減価償却累計額)	6,500	(車両)	12,500
(減価償却費)(*)	600	(仮受消費税等)(*)	580
(現金預金)(*)	6,380	(固定資産売却損益)(*)	400

(*) $1 \div 5 \text{年} \times 200\% = 0.4$ <償却率>

$(12,500$ <前T/B車両> - $6,500$ <前T/B累計額>) $\times 0.4 \times \frac{3 \text{ヵ月}}{12 \text{ヵ月}} = 600$

(*) 下取価格

(*) $6,380 \div 110\% \times 10\%$ <消費税率> = 580 <消費税>

(*) 貸借差額

② 新車両の購入

(車両)(*)	13,200	(現金預金)(*)	6,380
(仮払消費税等)(*)	1,320	(仮払金)(*)	8,140

(*) 下取価格

(*) $14,520$ <新車代金> - $6,380$ <下取価格> = $8,140$ <支払額>

(*) $14,520 \div 110\% = 13,200$ <消費税抜き>

(*) $13,200 \times 10\% = 1,320$ <消費税>

③ 減価償却 (新車両)

(減価償却費)(*)	3,960	(車両減価償却累計額)	3,960
------------	-------	-------------	-------

(*) $1 \div 5 \text{年} \times 200\% = 0.4$ <償却率>

$13,200 \times 0.4 \times \frac{9 \text{ヵ月}}{12 \text{ヵ月}} = 3,960$

∴ 後T/B減価償却費 : $25,000$ <建物> + $1,125$ <備品(従来)> + 300 <備品(資本的支出)> + 600 <旧車両> + $3,960$ <新車両> = $30,985$

6. 社債

(社 債 利 息) (*1)	1,500	(未 払 利 息)	1,500
(社 債 利 息) (*2)	209	(社 債)	209

$$(*1) 200,000 \times 3\% \text{〈約定利子率〉} \times \frac{3 \text{ か月}}{12 \text{ か月}} = 1,500 \text{〈クーポン利息〉}$$

$$(*2) 198,724 \text{〈前T/B社債〉} \times 3.44\% \text{〈実効利子率〉} \times \frac{3 \text{ か月}}{12 \text{ か月}} \div 1,709 \text{〈利息配分額〉}$$

$$1,709 - 1,500 = 209 \text{〈償却額〉}$$

$$\therefore \text{後T/B社債} : 198,724 \text{〈前T/B〉} + 209 = \mathbf{198,933}$$

$$\therefore \text{後T/B社債利息} : 5,114 \text{〈前T/B〉} + 1,500 + 209 = \mathbf{6,823}$$

7. 地代

(前 払 地 代) (*)	16,000	(支 払 地 代)	16,000
-----------------	--------	-------------	--------

$$(*) 40,000 \text{〈前T/B支払地代〉} \times \frac{8 \text{ か月}}{20 \text{ か月}} = 16,000$$

$$\therefore \text{後T/B支払地代} : 40,000 \text{〈前T/B〉} - 16,000 = \mathbf{24,000}$$

8. 消費税

(仮 受 消 費 税 等) (*1)	150,480	(仮 払 消 費 税 等) (*2)	139,654
		(未 払 消 費 税 等) (*3)	10,826

$$(*1) 150,000 \text{〈前T/B〉} - 100 \text{〈クレジット売掛金の貸倒〉} + 580 \text{〈旧車両の売却〉} = 150,480$$

$$(*2) 138,000 \text{〈前T/B〉} + 154 \text{〈クレジット売掛金の期末処理〉} + 180 \text{〈備品の資本的支出〉} + 1,320 \text{〈新車両の購入〉} = 139,654$$

$$(*3) \text{貸借差額}$$

9. 法人税等

(法 人 税 等)	56,000	(仮 払 法 人 税 等)	25,000
		(未 払 法 人 税 等) (*)	31,000

$$(*) \text{貸借差額}$$

【会計学解説】

問題1 正誤問題

解答参照。なお、関係する法令、会計基準等は、次のとおりである。

1. 明瞭性の原則 「企業会計原則 一般原則 四」
2. 純資産の部の表示 「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準 4、7(1)」
3. 割引前将来キャッシュ・フローの見積りの変更による調整額に適用する割引率 「資産除去債務に関する会計基準 11」
4. 未実現利益の消去 「連結財務諸表に関する会計基準 36、38」
5. 繰延税金資産及び繰延税金負債等の計上方法 「税効果会計に係る会計基準 第二 二 2」
6. ヘッジ会計の要件が充たされなくなったときの会計処理 「金融商品に関する会計基準 33」
7. 確定拠出制度の会計処理 「退職給付に関する会計基準 31」
8. 1株当たり当期純利益の算定 「1株当たり当期純利益に関する会計基準 12」
9. 資産グループについて認識された減損損失の配分 「固定資産の減損に係る会計基準 二 6(2)」
10. 賃貸等不動産の範囲 「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準 5、6」

問題2 キャッシュ・フロー計算書

問1 解答参照。

資金の範囲 「連結キャッシュ・フロー計算書作成基準 第二 一」

問2 キャッシュ・フロー計算書の作成（以下、単位：千円）

1. 直接法

(1) 営業収入

売上債権（売掛金）			貸倒引当金		
前期末残高	100,000	営業収入 貸借差額	取崩額	0	前期末残高
売上	500,000		当期末残高	2,400	繰入額
		当期末残高	120,000		

(2) 商品の仕入支出

仕入債務（買掛金）			原価ボックス		
商品の仕入支出	274,500	前期末残高	期首商品	82,000	売上原価
貸借差額		当期仕入	当期仕入	281,500	期末商品
当期末残高	72,000		貸借差額		
		当期末残高	63,500		

(3) 人件費の支出（給料）

給料			給料	
人件費の支出	41,600	貸借差額	未払給料	2,600
貸借差額			P/L計上額	43,000
当期末残高		未払給料	4,000	

(4) その他の営業支出（支払地代）

支払地代			支払地代	
前払地代	4,000	その他の営業支出 貸借差額	前払地代	6,500
その他の営業支出	14,500		P/L計上額	12,000
当期末残高		当期末残高		

(5) 利息の受取額（受取利息）

受 取 利 息			
前期末残高 →	未 収 利 息	0	利息の受取額 1,300
	P / L 計上額 1,500		貸借差額
			未 収 利 息 200 ← 当期末残高

(6) 利息の支払額（社債利息）

社 債 利 息			
当期末残高 →	利息の支払額 1,800	未払社債利息 0	← 前期末残高
	貸借差額		P / L 計上額 2,100
	未払社債利息 300		

(7) 法人税等の支払額

法 人 税 等			
当期末残高 →	法人税等の支払額 34,000	未払法人税等 34,000	← 前期末残高
	貸借差額		P / L 計上額 37,800
	未払法人税等 37,800		

2. 間接法（小計欄以降は直接法と同じ）

キャッシュ・フロー計算書（単位：千円）

営業活動によるキャッシュ・フロー

〔 税引前当期純 〕 利益	〔 126,000 〕	(※1)
減価償却費	〔 20,000 〕	(※1)
貸倒引当金の〔 増加額 〕	〔 400 〕	(※2)
〔 有価証券売却益 〕	〔 △2,000 〕	(※1)
受取利息	〔 △1,500 〕	(※1)
社債利息	〔 2,100 〕	(※1)
売上債権の〔 増 加 〕 額	〔 △20,000 〕	(※3)
棚卸資産の〔 減 少 〕 額	〔 18,500 〕	(※4)
仕入債務の〔 増 加 〕 額	〔 7,000 〕	(※5)
前払費用の〔 増 加 〕 額	〔 △2,500 〕	(※6)
未払費用の〔 増 加 〕 額	〔 1,400 〕	(※7)
小 計	〔 149,400 〕	

(※1) 損益計算書より

(※2) $2,400 < \text{当期末残高} > - 2,000 < \text{前期末残高} > = 400 < \text{増加額} > = \text{加算}$

(※3) $120,000 < \text{売掛金の当期末残高} > - 100,000 < \text{売掛金の前期末残高} > = 20,000 < \text{増加額} > = \text{減算}$

(※4) $63,500 < \text{商品の当期末残高} > - 82,000 < \text{商品の前期末残高} > = \triangle 18,500 < \text{減少額} > = \text{加算}$

(※5) $72,000 < \text{買掛金の当期末残高} > - 65,000 < \text{買掛金の前期末残高} > = 7,000 < \text{増加額} > = \text{加算}$

(※6) $6,500 < \text{前払地代の当期末残高} > - 4,000 < \text{前払地代の前期末残高} > = 2,500 < \text{増加額} > = \text{減算}$

(※7) $4,000 < \text{未払給料の当期末残高} > - 2,600 < \text{未払給料の前期末残高} > = 1,400 < \text{増加額} > = \text{加算}$

問題3 資産の貸借対照表価額

問1 時価の算定に関する会計基準

解答参照。

問2 回収可能価額（使用価値と正味売却価額）

解答参照。